

区 分 名： 看護の基本となる科目

科 目 名： 看護学の基本Ⅰ

(英語名称： Nursing FundamentalsⅠ)

【担当教員】 黒田 るみ

【開講年次】 1年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単 位 数】 2単位 【時 間 数】 30時間

【概要】

看護学の導入として、また専門領域を学ぶ上での土台となる科目である。ここでは、看護の責務、看護の歴史、看護理論、看護の対象など様々な角度から看護を考え、理解を深め、看護職の将来を展望し、社会に求められる専門職としての看護について、グループワークやポートフォリオ、パフォーマンス課題を用いて学習する。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目である。

【学習目標】

- 1) 看護学を学ぶ上で、基盤となるものの見方・考え方の概要を説明できる。
- 2) 看護学および看護について、その共通性・相違性を説明できる。
- 3) 看護学に関連する概念、定義を説明できる。
- 4) 看護学における対象の捉え方について、概要を説明できる。
- 5) 看護および看護学の歴史的変遷と看護理論について、説明できる。
- 6) 看護職の責務について、法的側面から説明できる。
- 7) 看護職の将来を展望し、社会が求める看護について、説明できる。
- 8) 看護学に関する概念を具体的な事例に関連づけて理解できる。
- 9) 自己の考えを文字や言葉に表現し、他者と共有を図るとともに、自己評価できる。

【テキスト】

指定しない。

【参考書】

1. F. ナイチンゲール著、湯楨ます他訳：看護覚え書 改訳第8版、現代社、2023.
2. F. ナイチンゲール著、薄井坦子他訳：看護小論集-健康とは病気とは看護とは -、現代社、2003.

3. ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯槇ます他訳：看護の基本となるもの 再新装版、2016.

その他、授業で紹介する。

【成績評価方法】

定期試験 50% (50 点)、レポート (提出課題)・授業への参加態度 50% (50 点) を合わせて合計 60 点以上を合格とする。

【その他 (メッセージ等)】

これから看護学の専門的な学習を始められる皆さんとともに、看護職がどのような役割を期待されており、看護学はどのような学問であるのか、考えていきたいと思います。

【授業内容 (学習項目)】

回数	項目	内容 (キーワード等)
第 1 回	オリエンテーション 看護とは何か	看護学の専門家に必要とされるものの見方・考え方について、使命感とは何か
第 2 回	看護の誕生と発展	看護の誕生から現代まで
第 3 回	日本における看護の歴史	医療および看護の歴史の概要、日本の医療と看護の歴史
第 4 回	看護および看護学の主要概念、 看護の対象①	看護および看護学の定義 統合体としての人間
第 5 回	看護の対象②	ライフサイクル、健康と疾病・障害
第 6 回	看護の対象③	生命体および生活体としての側面
第 7 回	看護理論の理解①	F. ナイチンゲールと看護論
第 8 回	看護理論の理解②	V. ヘンダーソンと看護論
第 9 回	看護理論の理解③	看護理論開発の変遷
第 10 回	看護の役割と倫理	看護の具体的役割と機能、倫理
第 11 回	看護の法的側面	保健師助産師看護師法、看護関連法規
第 12 回	看護と保健・医療・福祉	保健・医療・福祉サービスの内容と看護
第 13 回	職業としての看護と教育	看護教育体制、認定看護師、専門看護師、 特定行為に係る看護師の研修制度、キャリア形成
第 14 回	専門職としての看護	国際看護・災害看護の概念、
第 15 回	看護学の基本 I のまとめ	自己の振り返りと学習課題、まとめ

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		

		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		である
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					

			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会はあるが。単位認定に感がない。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		

		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		